



「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

第247回 広報の大切さ

広報活動の重要性

ある程度の規模の企業になると、広報部門を設置している。しかし、その活動には大きな差があると感じる。それはその企業が広報活動を重視するか否かによって違ってくるのだが、筆者が広報活動を重視するのは、広報活動の良し悪しが業績や株価に大きく影響するからだ。

攻めの広報

広報には、「攻めの広報」と「守りの広報」がある。「攻めの広報」とは、企業イメージを高めるために、新製品の発表や自社独自の取り組みなどを積極的に発信し、より多くの媒体で取り上げてもらう活動だ。攻めの広報は、株価の上昇にもつながる。それだけに積極的な広報活動を展開している企業は、媒体に取り上げてもらいやすいテーマにして発信するのがうまい。単に新製品を発売しましたと言っても、それだけで媒体がとりあげることはない。新たな話題にできる内容、明らかに社会が変わることを予見させる内容にするなど打ち出し方がうまい。ニュース性を売る媒体の立場を理解した発信をしている。

守りの広報の難しさ

それに対して「守りの広報」は、その企業にとってマイナスになる事態が発生した際、対応を発信することで企業イメージのダウンをいかに最小限に抑えるかという活動だ。実は、広報活動では、攻めの広報より、この守りの広報の方がはるかに難しい。それは、ほとんど準備する時間がない中で、いかに適切な対応ができるかが勝負だからだ。もし、トップの意思決定そのものが社会規範や消費者感覚からズレがあったりすれば、問題が大炎上することになりかね

ない。下手な隠蔽をすれば、正義感ある社員から真実が漏れ、大炎上することになる。「もう少し考えて」と言っている間に他から情報が漏れれば、隠蔽していたと言われかねない。時間が勝負という中で、どれだけ適切な対応ができるかが守りの広報なのだ。

守りの広報で一番大切なことは、経営トップに、社会的な視点から適切な判断をするようにリードすることだ。また、どれだけお客様視点で対応できるかだ。不祥事を起こした際は経営トップが記者会見する必要に迫られる場合も多い。その際の姿勢、質問に対しての回答視点を経営トップ自らのものとして答えられるようにする必要がある。いかに真摯な姿勢で臨むか、また例え自分が直接指示していないことであっても、トップ自らが自分の責任だと自らに言い聞かせて対応できなければ、他責発言をしてしまうことにもなりかねない。

すなわち、どう対応すべきかを明確に示すと共に、誰を矢面に立たせるか、また、対応にあたっての意識付けまでを、超短時間で行なう必要があるのが守りの広報の力ということになる。それだけに守りの広報は難しいのだ。守りの広報がうまくいかなければ、信用を失い、企業の存続の危機に陥ることになることを肝に銘じて、経営トップが素直に広報部門の意見を聞く姿勢が大切なのだ。もっとも、その前提はプロと言える広報部門であることが前提ということなのだ。

さて、皆さんの企業の広報部門は、企業価値の向上に貢献できているだろうか。企業を守る広報ができているだろうか。

<執筆者プロフィール>



高橋 功吉 (たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営 / 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

エンジニアのための技術基礎研修

「To-Beエンジニア試験」「To-Beメンテナンス技術試験」

タイ人エンジニアをどう育てたらいいかわからない?

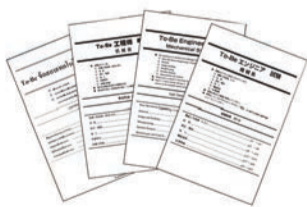


- ✓ タイ人大学講師によるタイ語での分かりやすい出張講義です。
- ✓ 貴社のエンジニア・テクニシャンのスキルがレベルアップします。
- ✓ テキストは日本語、タイ語、英語の3言語をご用意。

タイ人エンジニアの本当のレベルがわからない?



- ✓ 日本で長年の歴史。東証一部上場企業を含む600社以上が受験。
- ✓ モノづくりに必要な技術基礎知識を問うタイ語(英語)の試験問題。
- ✓ 技術基礎力を「見える化」。昇進・入社試験等で適正人材を確保できます。



1969年より日本で技術系通信教育と技術研修を通じて企業の人材育成を支援してきた工学研究社が「To-Be エンジニア試験」「To-Be メンテナンス技術試験」、および「To-Be エンジニア研修テキスト」を作成しています。

工学研究社ホームページ  
 「To-Beエンジニア試験」  
[http://www.cogaku.tokyo/tobeEX/tobe\\_1.html](http://www.cogaku.tokyo/tobeEX/tobe_1.html)  
 「To-Beメンテナンス技術試験」  
[http://www.cogaku.tokyo/tobeMT/tobe\\_mt1.html](http://www.cogaku.tokyo/tobeMT/tobe_mt1.html)

お問合せ先 Bangkok Shuho International Co., Ltd.  
 Charn Issara Tower 1st Fl., 942 / 43 Rama 4 Rd., Suriyawongse, Bangrak, Bangkok 10500  
 Tel: 02-632-9179 Fax: 02-632-9354-5  
 E-mail: info@bangkokshuho.com 担当: オイル(日本語・タイ語)、臼井